

公立入試はどう変わったのか その1

愛知県の公立高校入試が変わりました。「難しくなった」とだけ評している塾もありますが、それは本質をとらえてはいません。今回の変化は、難易度というよりもその問題の質であって、そこからは愛知県の公立高校が中学生（特に上位校受験者）に要求する内容が変わったのだということが見てとれます。

従来愛知県の入試は、記号で答えさせるものが多く、その選択肢も悩ませるものは少なく、全国的に見ても容易でした。強いて言えば、数学の図形や理科の計算問題で差が出るくらいであり、公立トップ校を狙う中学生にとっては、社会や英語では1問も落とすことが許されないものでした。したがって塾における指導も、「浅くても広い知識」「難問より基礎・標準的な問題を確実にとる力」にならざるを得ませんでした。そのため旭丘や明和には合格できても、東海や淑徳を不合格になる受験生も少なからずいたようです。それは根本的に勉強法や到達目標が異なるからなのです。

今年の入試問題を眺めると、内容こそ新指導要領の範囲を出ていないものの、しっかり読みとって正しく作業ができるかとか、解法を自分で考えられるかといった問題が、いずれの教科にも2～3問ずつ入っていました。

もちろんそれらの新傾向問題以外は従来のような問題であるので、それ以外でしっかりとれば、十分合格圏に届く高校もかなりあるとは思いますが、ただ、従来オール4以上の内申が必要な中上位高校を受験する場合、この思考力を問う問題をどれだけ取れるかが合否への大きな鍵になるのは間違いなさそうです。

その意味で、愛知県が求める「エリート」の質が、今回変わったと言えるでしょう。言われたことだけをきちんと作業する生徒より、さまざまな条件から解法を考えだせる生徒を求めるようになったわけです。

今後何回かに分けて、各科目毎の新傾向問題について具体的に解説していきます。

'02年度塾生通知表評定平均（絶対評価：中3下段は相対評価）

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技術	9科目計
新中2	4.9	4.7	4.4	4.1	4.6	22.8	3.5	3.7	3.6	4.1	37.6
新中3	4.7	4.7	3.7	4.2	4.3	21.6	3.6	3.5	3.5	3.7	35.9
卒塾生	4.8	4.9	4.7	4.8	4.1	23.2	3.9	4.4	3.6	3.9	39.0
(相対)	4.8	4.6	4.6	4.4	4.6	22.9	3.9	4.4	3.9	3.9	39.0

5科目別内申評定割合 (%)

	英語	数学	国語	社会	理科
5	84	69	41	38	59
4	13	28	44	47	31
3	3	3	13	16	9
2	0	0	3	0	0
1	0	0	0	0	0

9科目合計内申点割合 (%)

	%	'01年度	'00年度
40～45	30	41	46
36～39	45	29	14
32～35	24	21	26
27～31	0	6	11
9～26	0	3	3